

I. 広東省

1. 朱小丹・省長が河源市、梅州市を視察

●5月30日～31日にかけて、朱小丹・省長、林少春・政法書記、鄧海光・副省長等が河源市、梅州市を訪れ、精緻な貧困救済の業務状況を視察。朱省長は精緻な施策を講じ、貧困救済の正念場を乗り越えていくよう強調（6月1日付『南方日報』）。

2. 省党常務委員会議の開催

●1日、胡春華・市党書記主宰の上記会議が開催され、全国科学技術イノベーション大会、両院院士大会、中国科学技術協会第9回全国代表大会の精神を伝達。習近平・総書記の重要講話の精神を真剣に学び、中央の意思決定・配置を実行し、中国の特色ある自主イノベーションの道を堅持し、科学技術イノベーションというキーポイントをつかみ、創新駆動による発展のための各業務・手配を着実にこなして、イノベーション型経済の形成を急ぐよう強調（6月2日付『南方日報』）。

●1日午後、上記会議で省党委員会及び省政府による都市計画・建設・管理の強化、精緻な貧困救済に関する実施意見について審議し採択（6月2日付『南方日報』）。

3. 省政府常務会議の開催

●1日午前、朱小丹・省長主宰の上記会議が開催され、加工貿易の刷新・発展、政務公開の全面的な推進、業界団体・商工会と行政機関の分離等について検討（6月2日付『南方日報』）。

4. 改革の全面的な深化に関する省党委員会指導グループ第18回会議の開催

●2日午後、胡春華・省党書記主宰の上記会議が開催され、改革の全面的な深化に関する中央指導グループ第24回会議及び習近平・総書記の重要講話の精神を伝達（6月3日付『南方日報』）。

II. 広州市

1. 第1回重要機能エリア重点プロジェクト建設推進現地会議の開催

●先頃、任学鋒・市党書記、温国輝・市長が復星グループ南方本部プロジェクトの建設状況を視察し、現地会議を開催。琶洲インターネット・イノベーション集積地、国際金融城、万博CBD（広州ゴールデン・トライアングル）建設の進捗状況について聴取し、次の業務を手配。温市長は、3つの重要機能エリアとその重点プロジェクトは広州市の産業発展と都市建設の新たな高みを示すものであり、広州の将来的なクオリティの高さに関わってくると強調（5月30日付『広州日報』）。

2. 温国輝・市長がシドニー市長一行と会談

●30日午前、上記会談で温市長は広州市とシドニー市の友好都市締結30周年関連イベント（“シドニー・ウィーク”）の広州開催を歓迎し、シドニー市の都市計画、持続可能な発展等の経験に学ぶと同時に、両市の経済・貿易、科学技術、教育、文化等の分野において協力を深め、両市の友好関係を更に確固たるものとし、伝えていきたいと述べた。同日晚、陳建華・市人代常務委員会主任がシドニー交響楽団のコンサートに招かれ、広州市代表として挨拶（5月31日付『広州日報』）。

3. 任学鋒・市党書記が広州市の子どもたちへメッセージ

●5月31日、任学鋒・市党書記は少年先鋒隊広州市工作委员会の報告書面にコメントし、“六・一”国際児童デー、第12回少年先鋒隊代表大会開催に際し、子どもたちに“志を持った小さな主人公”、“礼儀正しい小さな市民”、“イノベーションを起こせるような小さな模範”になるようにとのメッセージを添えた（6月1日付『広州日報』）。

4. 温国輝・市長が広州市の国有企業を視察

●5月31日、温国輝・市長が広汽工業集団、広州交通投資集団、広州地下鉄集団、広州越秀集団を訪れ、国有企業改革の刷新・発展状況について聴取。産業の技術革新を推進し、国有企業の革新的な競争力を高めていくよう伝えた（6月1日付『広州日報』）。

5. 温国輝・市長が南沙区を視察

●1日、温国輝・市長が南沙区、広州国際生物（バイオ）島を訪れ、重点プロジェクトの建設、産業発展、科学技術イノベーション、プラットフォーム建設等の進捗状況を視察。南沙区は質の高い発展を推進し、生物島への医薬産業の集積を急ぐよう指示（6月2日付『広州日報』）。

6. 鍾南山氏が中国工程界の最高賞を受賞

●1日、中国工程院院士で著名な呼吸器系医師の鍾南山氏が第11回光華工程科学技術賞を受賞。これまでに6人目の受賞となった（6月2日付『広州日報』）。

7. 世界初となるグラフェン電子ペーパーの発表

●先頃、広州市の奥翼電子科学技術有限公司と重慶グラフェン科学技術有限公司が広州市で記者会見を開き、世界初となるグラフェン電子ペーパーの研究開発に成功したと発表。IT界で調査等を行なっているガートナー社の予測によると、この電子ペーパーの応用による将来的な付加価値額は1.9億米ドルに達する見込み（6月3日付『広州日報』）。

8. 市党常務委員会議の開催

●2日、任学鋒・市党書記主宰の上記会議が開催され、習近平・総書記の人事に関する重要な指示、中央の「人材育成にかかる体制・メカニズムの改革深化に関する意見」を学習・貫徹するための座談会及び全国宗教工作会议の精神を伝達・学するとともに業務を手配（6月3日付『広州日報』）。

9. 第5回中国広州国際食品・食材展覧会が開幕

●2日、広州市琶洲の保利世界貿易博覧館で上記展覧会が開幕し、オーストラリア、韓国、日本、トルコ、イラン、カザフスタン、タイ、シンガポール、マレーシア等20の国、中国各省・市、香港・マカオ・台湾がテーマ館形式で参加（6月3日付『広州日報』）。

10. 世界環境デーで温国輝・市長が市民へメッセージ

●5日の世界環境デーで、温国輝・市長が広州市民に向けて、エコ広州を共に建設し、環境に配慮した発展をみんなで共有しようとメッセージを発表した（6月5日付『広州日報』）。

Ⅲ. 深圳市

1. 南山区政府が深圳清華大学大学院と戦略的提携

●5月29日午前、南山区政府と深圳清華大学大学院が戦略的協力枠組み協定に調印。国際的な技術移転システムの共同構築等4つの分野で協力を深めていく（5月30日付『深圳特区報』）。

●5月31日、馬興瑞・市党書記が北京で邱勇・清華大学総長と会談（5月31日付『深圳特区報』）。

2. 許勤・市長がポートルイス市長と会談

●30日午前、上記会談後、深圳市とモーリシャス・ポートルイス市は友好交流協力覚書に署名し、正式に友好交流都市提携を結んだ。覚書によれば、両市はスマート・シティ、環境保護、医療・衛生、文化・芸術、観光、スポーツ、青年交流等の分野で様々な形の交流及び協力を展開していく（5月31日付『深圳特区報』）。

3. 市政府常務會議の開催

●5月31日午後、許勤・市長主宰の上記會議が開催され、国务院の電子商取引発展に関する意見を貫徹するためのアクション・プランについて審議し採択。消費のレベルアップという重要なチャンスをつかみ、消費にかかる新業態における攻略ポイントをつかんでいくよう強調（6月1日付『深圳特区報』）。

4. 許勤・市長が企業を視察

●5月31日午前、許勤・市長一行が深圳普門科学技術有限公司を視察し、最も優れたイノベーション環境、行政サービスを確立し、企業がイノベーションによる発展によって大きく強くなっていくことを全力でサポートする旨強調（6月1日付『深圳特区報』）。

5. 5月31日午前、許勤・市長が中科招商投資管理集团有限公司董事長と会談（6月1日付『深圳特区報』）。

6. 深圳市とアルメレ市が正式に友好都市提携を締結

●両市は2013年に友好交流都市となり、約3年を経て理解を深めるとともに協力・交流を進め、“気持ち”を温めて続けてきた。5月31日昼、許勤・市長とオランダ・アルメレ市長が「友好都市関係締結協定」に署名し、両市は正式に友好都市に“昇格”した。協定によれば、双方は経済、貿易、港湾物流、科学技術、文化、教育、スポーツ、衛生、低炭素・環境保護、食品、展覧会等の分野で様々な形の交流及び協力を推進していく（6月1日付『深圳特区報』）。

7. 田夫・広東自貿区管理委員会主任が第2回中露中小企業実業フォーラムに出席

●先頃、上記フォーラムに出席した田夫・広東自貿区前海蛇口エリア管理委員会主任は同エリアの発展状況について紹介し、ロシア企業を招いて、エネルギー、建材、通信、自動車、農業、観光、科学技術イノベーション等の分野で協力を深めていくことを歓迎すると伝えた（6月1日付『深圳特区報』）。

8. 馬興瑞・市党書記がトーゴ共和国大統領一行と会談

●1日晚、上記会談で深圳市は両国国家元首が合意した重要なコンセンサスをしっかりと実行し、“一帯一路”の共同建設のチャンスをつかみ、トーゴ共和国との友好協力を深め、港湾物流、インフラ、ハイテク産業等の分野で実務レベルの協力を更に強化し、より多くの深圳企業の投資・交流を推進し、実際の行動で中国・アフリカ協力フォーラム・ヨハネスブルク・サミットの成果を実行し、両国の友好協力関係を促進し貢献していくことで合意（6月2日付『深圳特区報』）。

9. 市党常務委員會議の開催

●1日、馬興瑞・市党書記主宰の上記會議が開催され、“科学技術関連の3つの會議”の精神を伝達。国際科学技術産業のイノベーション・センターを急いで建設し、世界科学技術強国の構築に貢献すべく励まなければならないと伝えた（6月2日付『深圳特区報』）。

10. 深圳市治安パトロール総合予防・コントロール勤務体系が正式に始動

●1日午前、馬興瑞・市党書記が上記勤務体系の正式始動を宣言すると共に、許勤・市長が始動式を主宰し、李華楠・政法書記、郭永航・党秘書長が出席。劉慶生・公安局長が上記勤務体系の建設任務を手配（6月2日付『深圳特区報』）。

11. 書記特別テーマ會議の開催

●2日午後、馬興瑞・市党書記主宰の人材と住宅建設及び不動産市場に関する會議が開催され、優秀な人材のための住宅制度を整備し、安定した生活環境を確保し、深圳市のイノベーションに基づく発展を長期的に続けるため、第13次5か年計画期間に約30万戸を建設し、人的基盤を固めるよう強調（6月3日付『深圳特区報』）。

1 2. 2 日午前、馬興瑞・市党書記が国務院安全生産監督管理委員会第 6 巡視グループ一行と会談

1 3. 馬興瑞・市党書記が張首晟・米スタンフォード教授と会談

● 2 日午後、上記会談で張教授は基礎研究と自主イノベーション分野の状況について紹介し、深圳市のイノベーション発展事業に積極的に取り組んで行くことを表明（6 月 3 日付『深圳特区報』）。

※張首晟：米国科学アカデミー会員、アメリカ芸術科学アカデミー会員、中国科学院外国籍院士。

1 4. 許勤・市長がARM 社グローバルCEO、厚朴投資管理有限公司董事長一行と会談

● 2 日午後、上記会談で ARM 社と厚朴投資管理有限公司が戦略的協力協定に調印（6 月 3 日付『深圳特区報』）。

※ARM 社：マイクロプロセッサの設計等を手がける英国企業。

1 5. 馬興瑞・市党書記が龍崗区、坪山新区を視察

● 3 日午後、馬興瑞・市党書記が上記 2 つの区を訪れ、重点工業プロジェクトの進捗状況を視察。馬書記は建設を急ぎ、深圳市の経済発展における質の向上、効果の増大を推進し、将来の有力な支柱にしていくよう強調（6 月 4 日付『深圳特区報』）。

1 6. 2 日～3 日にかけて、支樹平・国家品質監督検査検疫総局局長、馬興瑞・市党書記が深圳市で検査検疫業務を視察（6 月 4 日付『深圳特区報』）。

1 7. オマーン諮問評議会議長が深圳市を視察

● 4 日、戴き北方・市政協主席がオマーン諮問評議会議長と会談し、オマーンは“一帯一路”の共同建設にとって独特の地政学的優位性を備えており、深圳市はより多くの企業がオマーンに投資するよう奨励していくと表明（6 月 5 日付『深圳特区報』）。